

学生にとって履修履歴を採用に用いることは「当たり前」のフェーズに 2020年新卒採用における履修履歴活用実態調査結果

このたび履修履歴活用コンソーシアムでは、2020年新卒採用における履修履歴活用実態調査（新卒採用における企業の履修履歴の取得・活用状況調査）を、コンソーシアム加盟企業が運営する就職サイトの会員を対象に本年の6月下旬から8月上旬にかけて実施いたしました。

この調査は2018年新卒採用における調査（2017年実施）からスタートし、3年目となります。その内容を過去の結果との比較を交え、以下ご報告いたします。

なお、本調査では、「履修履歴を活用していた企業名」を尋ねております。名前が挙がった企業も、あわせて公表させていただきます。

2020年新卒採用における履修履歴活用実態調査概要

- 調査実施者：一般社団法人履修履歴活用コンソーシアム
- 実施期間：2019年6月25日～2019年8月7日
- 調査対象：2020年卒業予定の全国大学4年生及び院2年生
- 調査方法：Eメールにてアンケートへの回答を依頼。学生はWeb上のアンケートフォームより入力
- 回答数：1,054名（文系582名、理系472名）

「選考時、学業を重視していると感じる企業がある」との回答が2年連続増加

「採用選考において、学業を重視していると感じた企業がどのくらいあったか」という質問をおこなった。

2018年卒向けの調査では「なし～1割程度」と回答した学生が約8割だったことに対し、2020年卒向けの調査では同回答が5割を切っている。つまり、「学業に注目しない企業」は、この2年間で大幅に減ってきていると考えられる。2018年卒向け調査と2019年卒向け調査の経年比較でも、「選考時に学業を重視している企業が増加傾向にあるのでは」と考えていたが、その傾向が更に強まっているようだ。

学業を重視していると感じた理由は、前年に続き「面接で研究・ゼミ以外の履修科目や授業について、具体的に質問されたから」がトップだが、「特定の科目について取得状況や、その成績を確認されたから」は、過去の調査と比べると割合が下がっている。特定の科目のみではなく、より広い範囲の知識を得られているか、興味を持っているかを面接で問われることが増えている可能性がある。

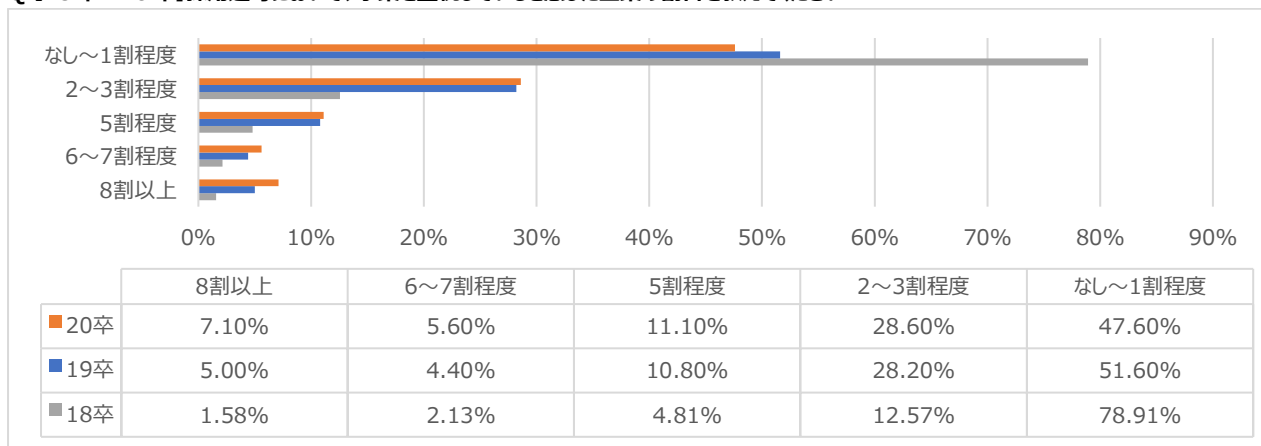
なお、学業を重視していると感じなかった理由は、変わらず「面接で研究・ゼミについての質問はあったが、それ以外の履修科目や授業について具体的な質問がなかった」がトップとなっている。

経年で比較すると、学業を重視していると感じた理由の「選考初期段階で履修履歴の提出を求められたから」が、減少。学業を重視していないと感じた理由の「選考初期段階で履修履歴の提出を求められなかったから」は増加。ということに、注目し

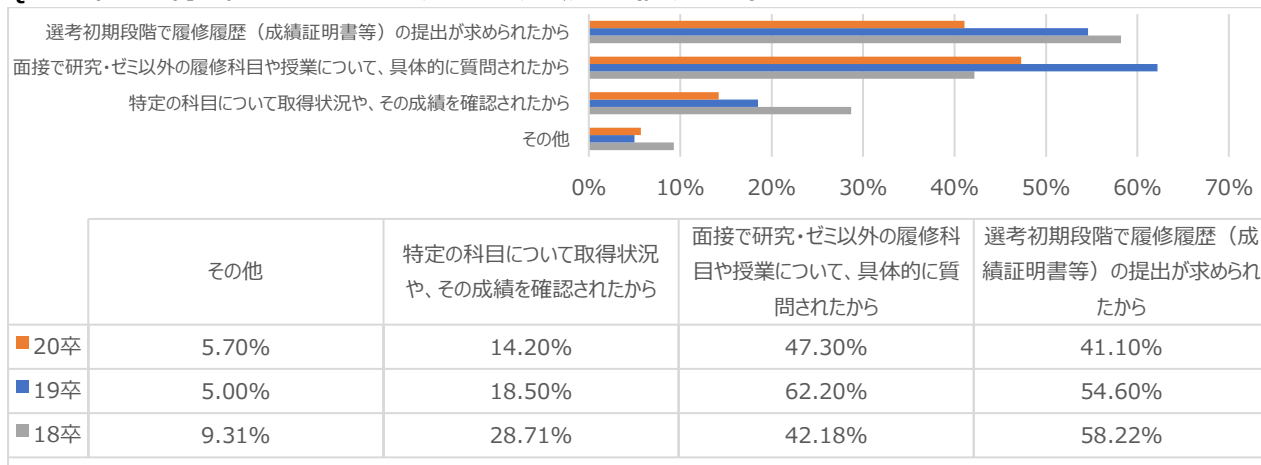
たい。しかし、「面接では卒業可能性程度の質問だったので」という回答は減ってきており、選考初期段階では履修履歴の提出を求める企業が減っているが、学業に注目した採用選考をおこなう企業は徐々に増えてきていると考えられる。

実際、重視している・重視していると感じなかった、それぞれの理由の自由記述を見ると、「学業で頑張ったことを話してほしいと言われた」「学業を通して何を学んだかを話してほしいと言われた」という回答が目立っていた。面接で直接的に学業について問われる機会が増えてきたのであろう。

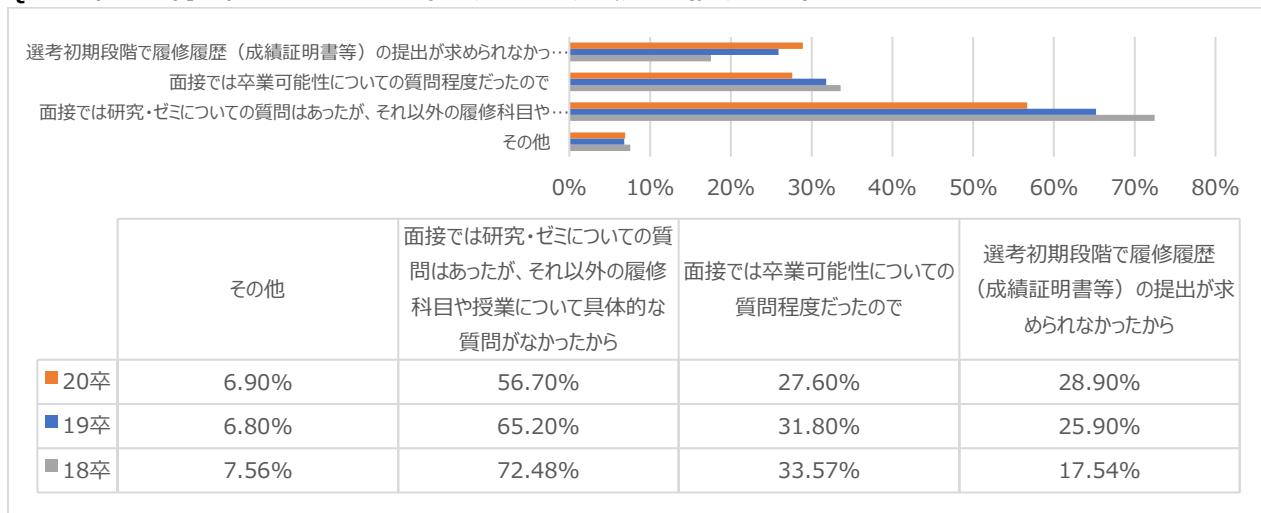
Q.【18卒～20卒】採用選考において、学業を重視していると感じた企業の割合を教えてください



Q.【18卒～20卒】学業を重視していると感じた理由を教えてください（複数回答可）



Q.【18卒～20卒】学業を重視していると感じなかった理由を教えてください（複数回答可）



学業について聞かれることは「当たり前」に。どのように聞かれるかで印象は左右される。

「面接で、学業のことを聞いてくれる企業の印象は良いですか？」という質問をおこなった。

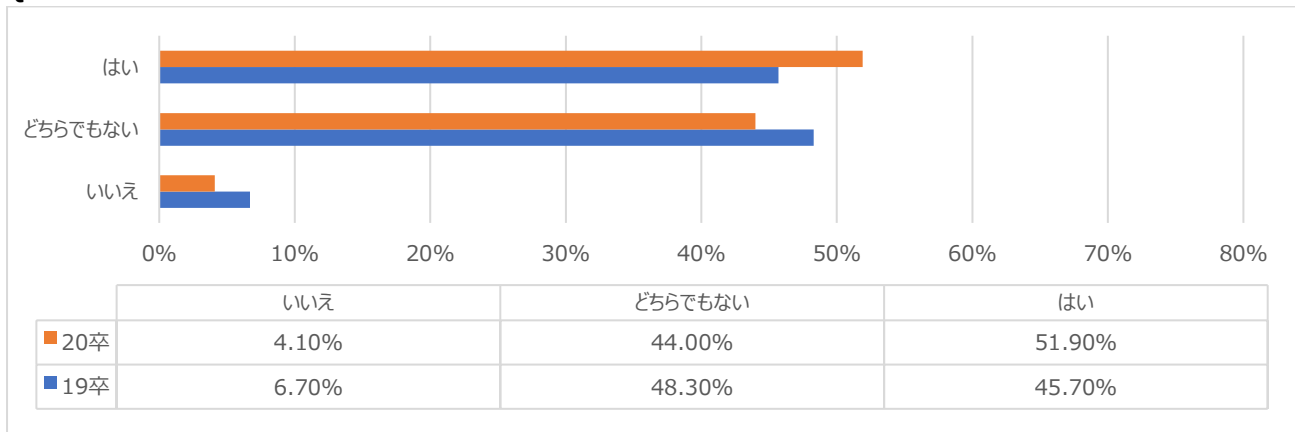
昨年は「いいえ」「どちらでもない」が半数を超えたが、今年は「はい」が半数を超えた。

「はい」と回答した学生の回答で印象的だったものは、「人柄や今までの活動など根拠のないものだけでなく、学業という数字として出るものや誤魔化すのが難しいことに対して深く聞いてくる企業に対しては、しっかりしている企業なのだ」という印象を持ったというもの。逆に成績証明書などの提出を求めているが、面接では一切聞かれなかった企業には「何のために提出させたのか」という印象を持っている学生もいた。

また、「学業は学生の本分であるからこそ、面接で聞かれるのは当たり前」と考え「どちらでもない」を選択する学生も多く見受けられた。さらにいうと、以前よりも学生の中で、学業について面接で聞かれることについて抵抗や違和感がなくなってきたのかもしれない。

「自分を知らうとして、どんなことを学んだのかを聞いてくれるのは嬉しい。ただ、結果（成績）だけを見て判断されるのはあまり印象がよくない」といった回答もあり、企業側の質問の仕方やタイミングによっては、あまり良い印象を与えないこともあるようだ。

Q. 【19卒・20卒】面接で、学業のことを聞いてくれる企業の印象は良いですか？



※この設問は 2018 年卒向け調査（2017 年実施）では実施せず

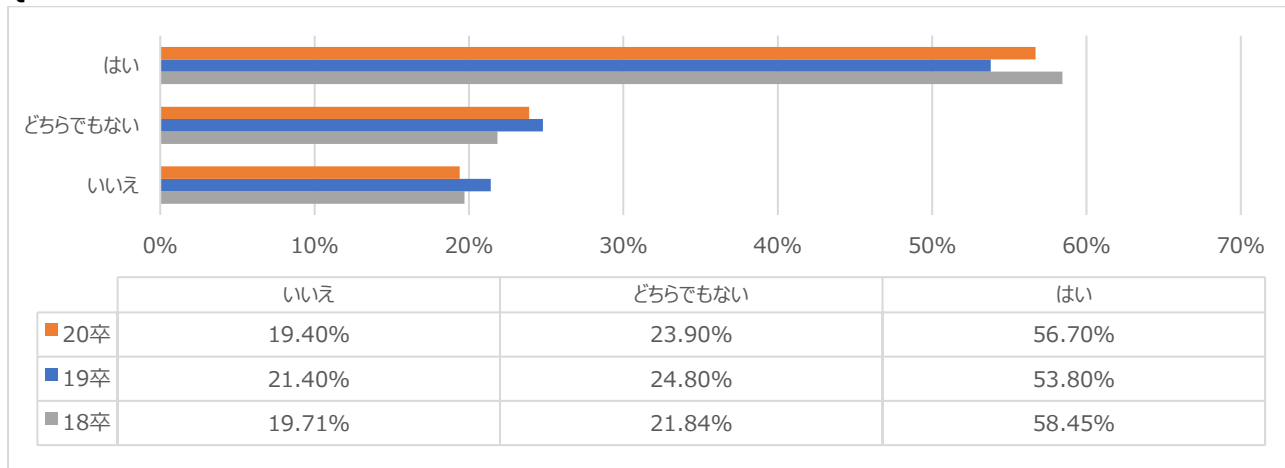
学業に関する質問を積極的にすると、学生の学業への取り組み方が変わる

「企業が面接で、学業に関する質問を積極的にすると、学生の学業への向き合い方は変わると思いますか？」という質問には、5割強の学生が「はい」と回答。これは過去の調査から変わっていない。

挙げられた理由も昨年とほぼ変わりなく、「学業に対して選考で質問されると分かれば、身の入れ方も変わってくる」「学業がすべてだとは思わないが、学業の取り組み方から人間性を図ることには十分に意味がある」などが目立った。ただし、「質問されるだけでは変わらない」という声も。また「学業ばかり聞いてくるのは、それだけかと不信感を抱く」という回答もあった。

過去の調査と同様、「学生の本分は学業」と捉えている学生は多い。だからこそ、「何故それ（学業）を評価してもらえないのか」と訴える学生もいれば、「選考に繋がるから学業を頑張る、というのはおかしい。本末転倒」と考える学生もいて、二分しているように見受けられた。

Q. 【18卒～20卒】企業が面接で、学業に関する質問を積極的にすると、学生の学業への向き合い方は変わると思いますか？



「学業が一番」と認識し、向き合っている学生の割合が増加

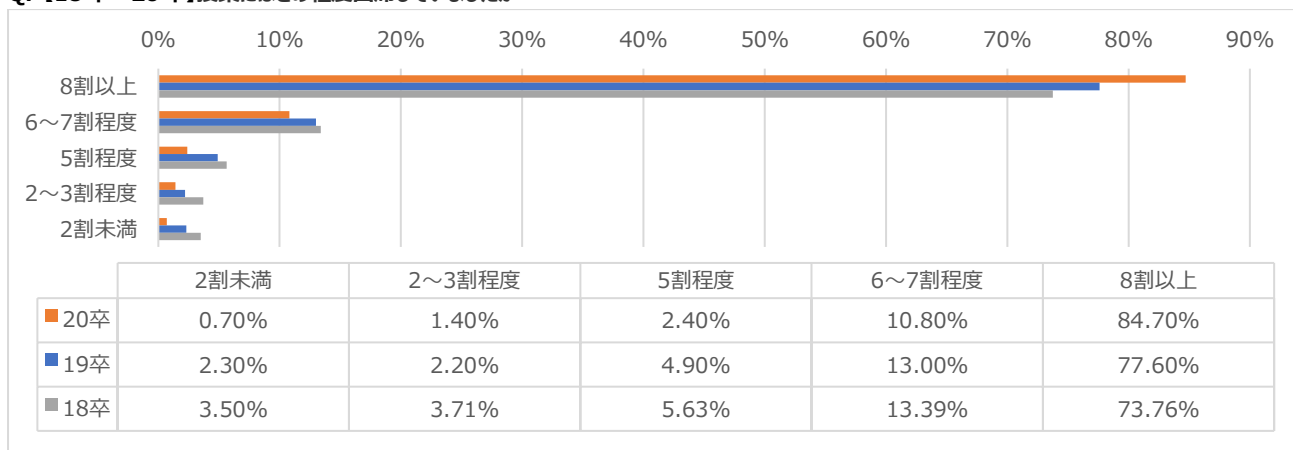
「授業にどの程度出席していたか」という質問では、「8割以上出席した」と回答した割合が飛躍的に伸びた。「2～3割程度」「2割未満」の学生の減少率も大きい。

「学業にはどの程度力を入れて取り組んできたか」という質問でも「100」や「80～90程度」の伸びが大きい。多くの学生が学業に力を入れて取り組むようになってきていることがわかる。

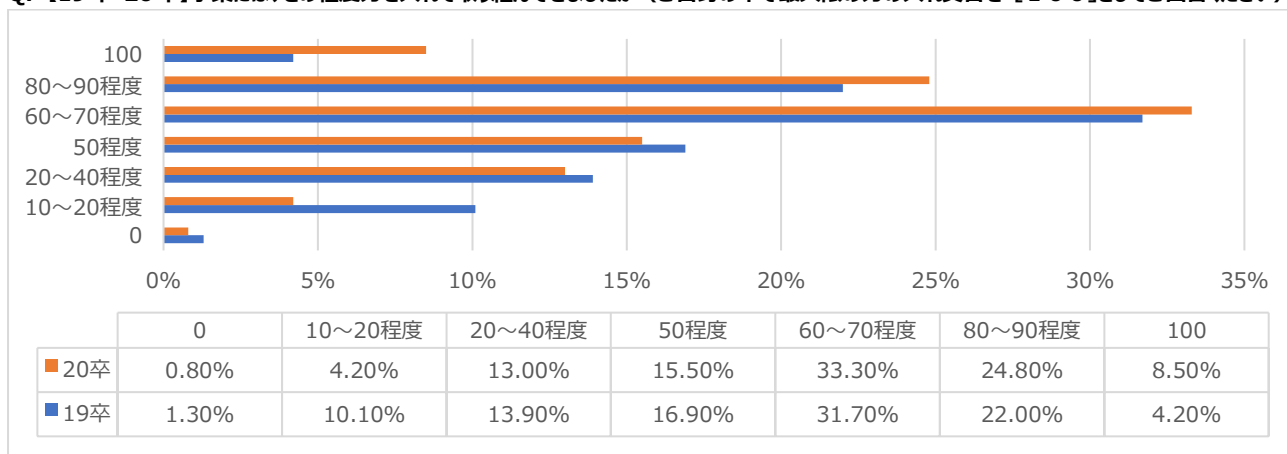
「学業／部活やサークル／アルバイト／学外での活動」が、自身の学生生活の中でどのくらい重要か、を問う質問では、半数以上の学生が「学業が1位」と回答している。他の回答を1位としている学生の割合は軒並み減少しているため、この回答からも学業への力の入れ具合がうかがえる。

これらの結果から、決して授業に時間を費やしているだけではなく、学業に力を入れてきた学生のイマが感じられる。

Q. 【18卒～20卒】授業にはどの程度出席していましたか

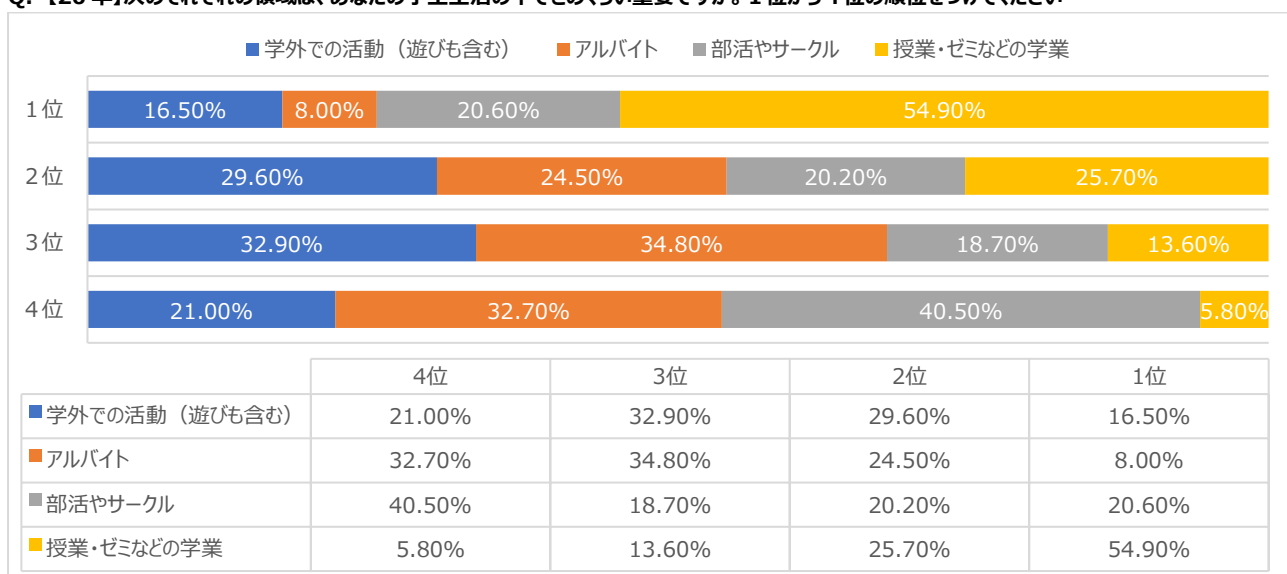


Q. 【19卒・20卒】学業には、どの程度力を入れて取り組んできましたか（ご自身の中で最大限の力の入れ具合を【100】としてご回答ください）

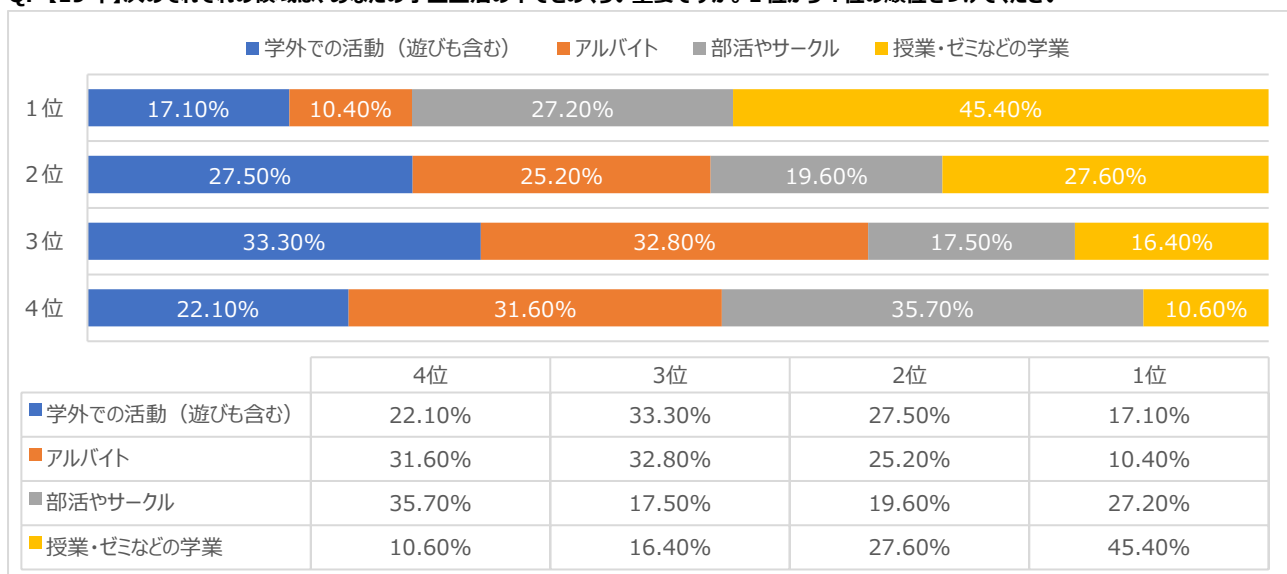


※この設問は 2018 年卒向け調査（2017 年実施）では実施せず

Q. 【20卒】次のそれぞれの領域は、あなたの学生生活の中でどのくらい重要ですか。1位から4位の順位をつけてください



Q. 【19卒】次のそれぞれの領域は、あなたの学生生活の中でどのくらい重要ですか。1位から4位の順位をつけてください



※この設問は 2018 年卒向け調査（2017 年実施）では実施せず

就職活動は学校が休みの時期に行えるのが理想的

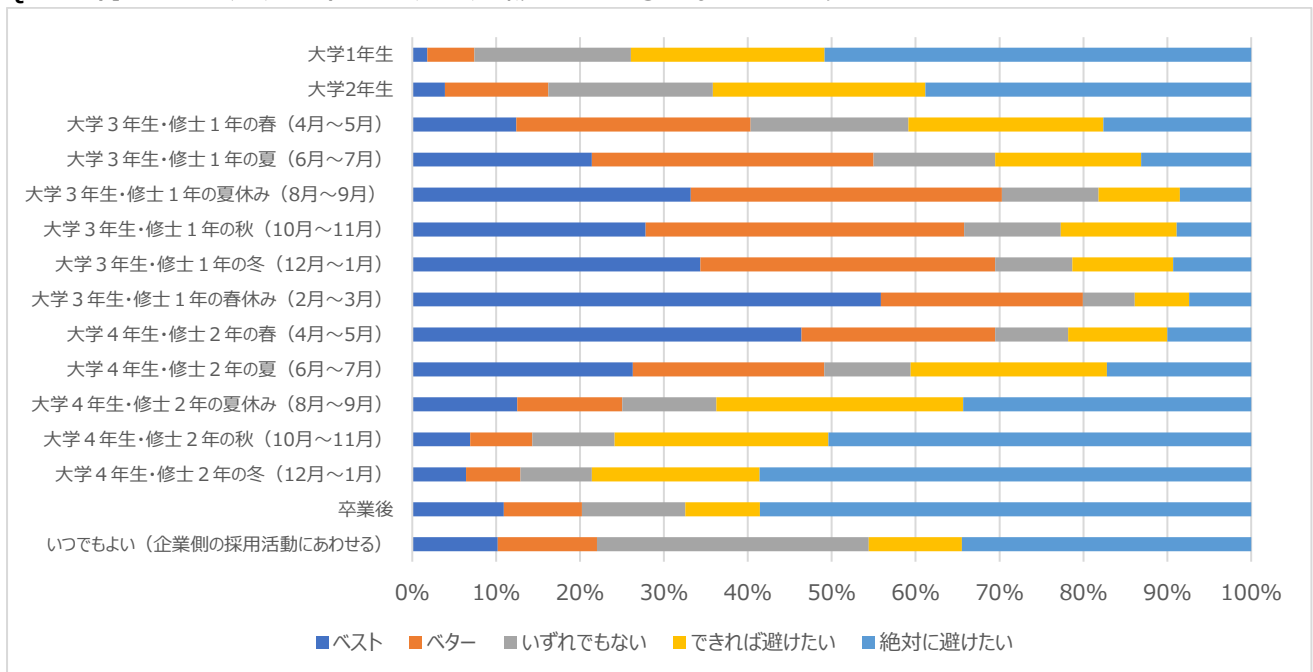
本年初めて、「ご自身が実現したい学業・学びのために、就職活動はいつごろおこなうのがいいか」という質問をしてみた。

「ベスト」と「ベター」の合計で最も多かったのが「大学3年生・修士1年の春休み（2～3月）」であった。これは「学業のため」という理由だけでなく、経団連が定めるスケジュール（3月1日解禁）が学生の中に浸透しており「3月開始」がいいと選択している可能性もあるが、2番目に多いのが「大学3年生・修士1年の夏休み（8～9月）」となっており、「学校が休みの時期に就職活動を行いたい」という学生が考えていることがわかる。

これらは「授業を行う期間は学業に専念したい」という学生の声にも感じる。

ただ、「大学在籍時は学業を優先し、卒業後に就職活動を」という大人の意見もあるが、学生に問うてみると、半数以上が「絶対避けたい」と回答。これらを踏まえて、私たち大人はどのように対応すべきか真剣に考える必要がある。

Q. 【20卒】ご自身が実現したい学業・学びのために、就職活動はいつごろおこなうのがいいですか？



理系より文系学生の方が履修履歴を評価されることに好印象

文系・理系に分けて集計をおこなってみたが、文理別の回答の傾向は概ね変わらなかった。

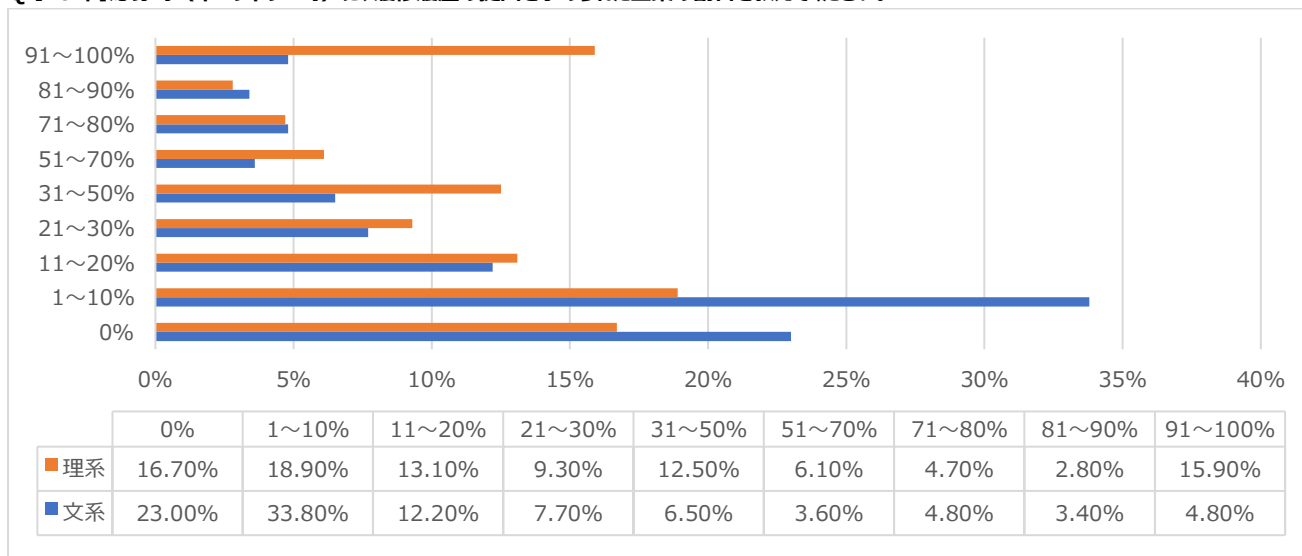
目立った違いは「応募時（本エントリー時）に、履修履歴の提出を求められた企業の割合」「授業以外での自習（予習や復習、研究など）に費やしている一日の平均時間」「選考時、学業のことを聞いてくれる企業の印象は良いか？」の3点。

この3点の違いから、やはり理系学生は学校での学びを専攻でも重視され、本人も学ぶことに力を入れている分、選考で学びを問われることは当たり前のように捉えているのかもしれない。良い印象を持つか？に対して、「はい」と「どちらでもない」に大差がないのはそういった意識を持っているからだと思われる。

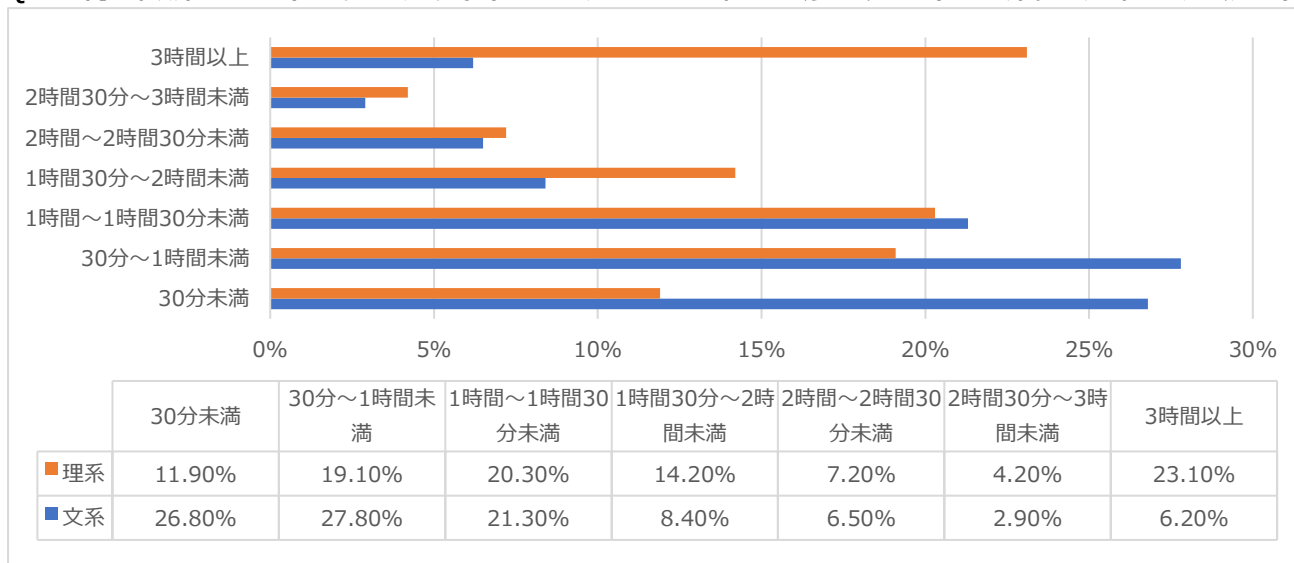
文系学生は早期段階での履修履歴提出も少なく、授業以外の時間での「学業」も理系に比べると少ない。ただし、「学業のことを聞いてくれる企業への印象は良いか」という設問は、文系が「はい」の回答が多い。学業と就職活動・社会とのつながりが

薄いと感じている文系学生にとっては、企業が採用選考時に学業に注目することが、学生の学業への向き合い方の変化を生み出す可能性がよりあるのではないかと感じています。

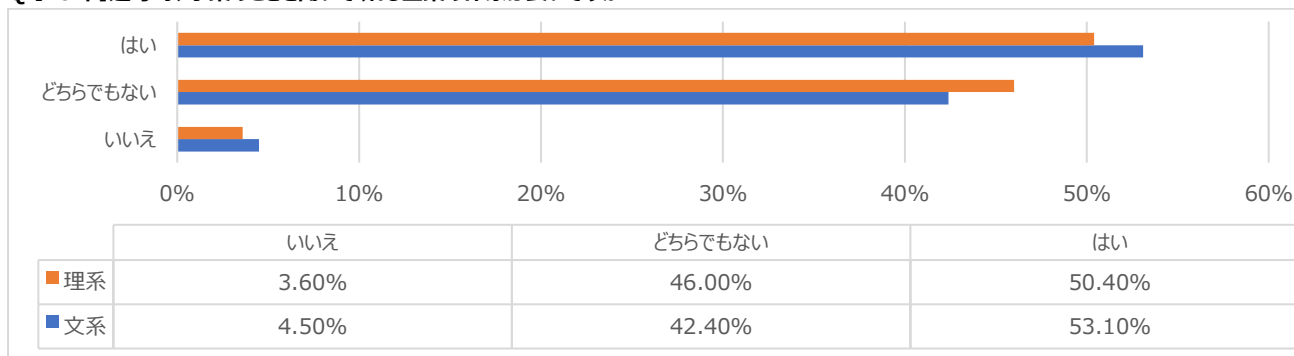
Q.[20卒]応募時（本エントリー時）に、履修履歴の提出を求められた企業の割合を教えてください。



Q.[20卒]授業以外での自習（予習や復習、研究など）について、一日の平均時間はどれくらいですか？（大学内外あわせた時間を教えてください）



Q.[20卒]選考時、学業のことを聞いてくれる企業の印象は良いですか？



調査まとめ

過去2年の調査時よりも更に、学生は学業へのウェイトを高めた学生生活を送っている傾向が見て取れた。同時に、選考に於いて学業を重視されることに対しても、以前より肯定的、そして「当たり前」と捉えている割合は増えている。

ただ、昨年の回答にもあったが、「選考で学業も重視している」という情報を、就活生になる前（大学1～2年生）に知っておきたかった、という声は変わらず大きい。これを今後どのようにして学生に伝えていくかは、当コンソーシアムとしても課題の1つだと考えている。

「学生の本分は学業」と学生自身が意識して臨んでいるのであれば、企業もそれを評価するのは真っ当なことではないだろうか。少なくとも型に嵌め、盛りに盛られた学外やアルバイトのエピソードよりは、客観的に学生を判断できる基準になり得るであろう。

なお、本調査は、2021年新卒採用の選考終了時期にも実施し、公表していく。

2020年新卒採用における履修履歴活用実態調査・アンケート結果

本アンケート結果の全データは下記よりご覧いただけます。

◆アンケート結果（経年比較）

<https://risyu-katsu.jp/2019enq20190924all>

◆アンケート結果（文理別）

<https://risyu-katsu.jp/2019enq20190924bunri>

◆アンケート結果／履修履歴の提出を、選考の早期段階で求めている企業名一覧

<https://risyu-katsu.jp/reports2019company>

履修履歴活用コンソーシアムについて

2017年7月1日設立の、全国各地域の就職・採用支援事業者で構成された団体です。2018年6月1日より一般社団法人に移行いたしました。

<設立趣旨>（ホームページ <http://risyu-katsu.jp/found/> より抜粋）

【学生の「学び」と、卒業後の「働く」をつなぐ架け橋として】

日本の新卒採用シーンでは、「学生がどのような考えや価値観に基づいて学業に取り組んできたのか」ということ（＝履修履歴）に対して興味を持たれることが、今までほとんどありませんでした。

それが結果として、「就活が始まると学生が授業に出なくなる」という現象につながり、「企業の採用活動は学業を阻害している」との批判を招く一因にもなっていました。

かかる状況を改善していくことを目的に、私たち就職・採用支援会社は共同で「履修履歴活用コンソーシアム」を設立いたしました。

本コンソーシアムのサービスや活動を通じて、学生の「学ぶ意欲」が醸成され、社会で活躍するための基礎的なチカラを蓄えた人材が、大学をはじめとするすべての高等教育機関から多数輩出される世の中になることを願っております。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

一般社団法人履修履歴活用コンソーシアム
運営事務局 事務局長（株式会社パフ） 保坂光江
電話 03-5215-7807 FAX 03-5215-8222
e-mail info@risyu-katsu.jp